

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念は「報恩・感謝・奉仕」と定められており、今の豊かな時代を作り上げて下さった地域の高齢者の方々、そして大自然に感謝しご恩返しする意味を理解して、職員は行動している。	法人の理念は創立者が開設時に作り上げたものである。職員には採用の際に周知され、全職員がホームの役割を理解している。また、法人理念を基に「職員心得」と、より具体的な「GH翠風園心得」が、職員の話し合いにより作られている。ホールへ掲示すると共に、職員に配布し、毎朝唱和を行い確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所が自治会の一員として、ドブ掃除、草取りなど町内会で行うものには進んで参加している。 ・地元の農家の方から野菜・果物などを戴く事が多い。	自治会に加入し利用者と職員と一緒に行事や清掃活動などに参加しており、これらの機会を通じてホームの暮らしを知ってもらい、地域の一員として受け入れられている。また、野菜等のやり取りを通じた交流をしたり、近隣の方々にホームからの災害時協力依頼に対して近隣住民に快諾頂くなど、地域との関係が構築されてきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の茶の間として隣接するデイサービスを休みの日に開放していたが、参加者が高齢化し休止となっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ホームの取り組み、日々の様子など、できるだけ詳しく報告し、出席者の意見を今後活かしている。	運営推進会議は、家族、コミュニティ協議会会長、地域包括支援センター職員、管理者で構成され、平成21年度は年4回開催した。利用者の状況や取り組み内容、サービスの状況等についての報告が主であり、サービス評価への取り組み状況や、結果、課題については積極的な話し合いは行われていない。	利用者が、ホームの中だけでなく地域住民として暮らし続けるために、ホームと地域とのパイプ役として、大いに会議の場を活用をしていくことが望まれる。報告に終始せず、積極的な意見交換を行い、サービスの向上に活かして行くことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・管理者が介護認定審査委員であり、月に何度か区役所を訪れ、必要に応じて担当各課と話し合っている。 ・他グループホームの委員であり、市町村職員と意見を交わし協力関係を築いている。	管理者が区の介護認定審査委員と他ホームの運営推進会議のメンバーとなっており、毎月定期的に区役所担当職員と面会・意見を交わす機会がある。その都度運営上の課題や現状について報告・相談し、助言を得るなど協力関係が構築されている。区の福祉関係者のネットワーク「南ふくネット」にも参加し、情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束をしないケアは職員みな周知し実行しているが、施設が国道8号線ぞいであり、すぐ目の前の場所で高齢者の交通死亡事故もあった事から、玄関の内かぎをかけている。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践に全職員で取り組んでいるが、「禁止の対象となる具体的な行為」について、改めて確認したり、研修を実施する機会は持たれていない。また、幹線国道沿いにあるという立地から、玄関の内鍵をかけている状況がある。</p>	<p>玄関の施錠については、地域住民や商店、公的機関の協力を得ることや、利用者への的確なアセスメントの実施等を行いながら、諦めることなく、少しずつ開錠の時間を増やして行けるように職員間でアイデアを出し合い取り組むことを期待したい。併せて、研修の実施やマニュアルの整備・活用を行い、身体拘束について定期的に学びや振り返りの機会を持つことを期待したい。</p>
7	(5-2)	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・身体的な虐待はまったくないが、言葉や態度も気をつけ、職員の具体的な行動の中で、何が虐待に当たるのかを学んでいる。</p>	<p>管理者と職員は、虐待が見過ごされることのないように日々注意を払い、防止に努めている。しかし、どのような行為が虐待に当たるのかということや、高齢者虐待関連法について、確認や研修の機会はない。</p>	<p>全員が統一したケアを実践し、より質の高いサービスを提供するために、必要な研修を行う仕組み作り、及び各マニュアル作成について、早期に計画的に取り組んでいくことを期待したい。</p>
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・管理者が成年後見制度の研修などに参加し学んでいる。入居者様で必要性を感じずる方もあり、詳しい理解が欠かせない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時に十分な説明を行っている。 ・契約時に本人や家族に疑問や質問がないかお聞きし、疑問等あれば丁寧に説明している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・管理者やユニットリーダーは現場業務からなるべくはずれ、入居者様と向き合う時間を多く設けると共に、ご家族の相談にも常に応じ、話しやすい環境を作るよう心がけている。</p>	<p>利用者からの意見・要望は日常のケアの中で引き出したり、関わりの中で把握するよう努めている。家族に対しては、面会に来やすい雰囲気と、一緒にゆっくり過ごしてもらえ環境づくりをするともに、お便りや行事参加を通じて何でも言える関係づくりに努め、意見の引き出しを行っている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・代表者は月に一度職員の意見や要望を直接聞く機会を設けている。 ・管理者は日常的に職員の意見や提案を良く聞き、運営に反映させている。</p>	<p>代表者は月に1回必ず来訪し、現場職員一人ひとりと面談を行っている。その中で職員は日々思っていることや処遇に関する事など意見を伝えている。また、管理者・ユニットリーダーは、日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気作りに取り組み、把握した意見は運営に反映している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月に一度経営会議が開かれ、管理者はその場で職員の取り組み、努力、功績等報告し、代表者や理事は職員各自が向上心をもって働けるよう、声をかけ激励する事を機会ある毎に実行されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	・法人内では内部研修で力量を磨き、外部の研修も適宜受講している。個々人のスキルアップにおいても勤務の配慮をし奨励している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・職員の充足を見ながら、同業他施設への見学等積極的に計画している。 ・他施設からの研修・実習依頼は常に受け入れ交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居申請時点においても、本人や家族の意向、要望等聞き取りをし、入居前に見学・体験入居を取り入れている。 ・利用者の様子をよく観察し、向き合うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と常にコミュニケーションをとりながら、不安・要望を聞く機会を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の意向を良く聞き、可能な限り応えていけるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活を続ける中で、掃除・洗濯・調理等、それぞれ役割と張り合いを持って行って戴けるよう努めている。 ・一人一人とのコミュニケーションを充分にとるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・受診等、出来るだけ家族に対応して戴き、本人の状態を把握していただいている。 ・家族に対して行事への参加の呼びかけ、外出・外泊の働きかけをしている。	家族の付添いによる通院時にはホームから情報提供を行い、受診結果を家族と共有し、利用者が健康に過ごせるように共に支援している。また、家族が希望すればホームで一緒に食事を摂ったり、泊まる事もできる。本人の希望を叶えるために家族の協力が必要な時は、本人の思いを共有して一緒に支援している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人が希望される場所へ個別に対応して出かけた時、知人への手紙等、便りの支援を行っている。	家族に限らず、友人や親戚も面会時にはゆっくり過ごせるように支援している。馴染みの理髪店に出かけたり、住んでいた家を見に行ったり、墓参りに行くなど、馴染みの場所への外出も支援している。また、以前から親しんだ趣味のハーモニカやフラダンスなどの講演会にも継続して出かけられるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・お茶や食事の時間にはテーブルを囲み、団欒のひとときを持てるよう、居心地の良い空間作りをしている。 ・利用者の性格・相性等も把握し、うまく関わられるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現時点では契約が終了後、継続的な関わりが必要な方はいらっしゃらないが、相談・要望があればいつでも対応する準備がある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者様一人一人とよくコミュニケーションをとり、本人の希望を実現できるよう努めている。 ・はっきりした表現が困難な場合は本人をよく観察し、希望を把握できるよう努めている。	利用者を交えてのカンファレンスを実施したり、日常の関わりの中での言葉や表情から、本人の思いや意向の確認を行っている。把握が困難な利用者には家族に代弁者になってもらい、一緒に考えている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・在宅時や他のサービス利用時の情報を収集し、職員が周知するよう努めている。 ・日常の中から見える生活歴などの情報を職員同士共有している。	入居前の事前訪問で家族・本人からこれまでの暮らし方を確認している。また、入居以前に介護サービスを利用されていた方は、その事業所から情報提供をしてもらっている。入居後も、本人の言葉や家族との情報交換から本人を理解する事に努め、これまでの暮らしが継続できるように取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・出来る事と出来ないことの見極めや、その日の体調により適切な援助が出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月カンファレンスを行い、気づいた事をそのつど話し合い、家族や本人の要望・意向を介護計画に反映させている。 ・家族ともよく話し、情報を得ている。	居室担当職員の意見、本人・家族の意向を反映して介護計画を作成している。さらに、毎月のカンファレンスにて全職員の気づきを意見交換し、モニタリングを実施している。定期的な見直しのほか、状態変化があった場合はその都度見直しを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録、業務日誌、オリジナルの記録表、また申し送り等で情報を共有し、必要時には計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な限り本人・家族のニーズに対応し、フォーマル・インフォーマルも含め、様々な関係者の協力も戴きながら取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・社会福祉会主催の行事、市の行事への参加、避難訓練等、消防署の協力を戴いている。 ・地域の芸能ボランティアに呼びかけ、慰問に来ていただくことが多い。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的にかかりつけ医への受診をしている。 ・本人の状態により、家族と相談しながら専門医への受診を行っている。	家族・本人が入居前からのかかりつけ医を希望すれば継続しての受診を支援している。基本的に受診は家族対応としているが、ホームからも情報を提供して、いつでも主治医と相談できる関係が築かれている。また、近隣の開業医による往診対応も可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・隣接のデイサービスに看護師がおり、随時相談にのってもらい、異変がある時は送球に対応している。 ・かかりつけ医の看護師に適切なアドバイスをもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中も病院関係者と連絡を取り合い、本人の身体状況をよく把握し、無家族ともよく連絡を取り合っている。 ・退院した時、普通の生活に戻れるよう受け入れ準備も整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の祭、家族と十分な時間をとり、無視説の方針を説明している。 ・話し合いの中で家族の理解を得ている。	入居契約時に「重度化や終末期においての方針」を口頭で説明しているが、ホームで出来ること、出来ないことなどを明確に文書化は行われていない。また、入居後、家族・本人の意向やホームの支援等について、段階的に話し合う機会は持っていない。	早い時期から、本人・家族の意向、ホームの出来ること・出来ないこと等について段階的に話し合う機会を重ね、関係者間の認識にズレがないようにすることが望まれる。また、事業所の力量も変化して行くことを職員間で話し合い、利用者や家族のニーズに対応できる体制を検討していくことも期待したい。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命訓練を定期的に行い、職員全員が受講するようにしている。 ・職員自ら上級救命講習、応急手当普及員などの講習を受け意識は高い。	全ての職員が年に1回救急救命訓練を受講し、知識と実技を学んでいる。さらに他の応急手当講習等にも積極的に参加し、技術を学び全職員に伝達している。隣接するサービスの看護師から応急手当の方法を学ぶ機会もある。また、AEDも設置されている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災や地震の際は、緊急避難できる協力施設を確保しておりいざという時に備えている。 ・水害の時は当施設が周囲より高い所にあるので動かない。	近隣の老人保健施設と災害時における協力体制が確立されており、備蓄品も整備している。年に2回実施している防災訓練において、職員は連絡体制と避難方法を身につけている。近隣の住民には文書と個別訪問にて火災発生時の協力を依頼し、快諾を受けている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人の人格を尊重し、その方にあった対応をしている。 ・排泄用品はなるべく目に触れない扱いをしている。	法人の理念に「報恩・感謝」と掲げている中で、職員は常に自らの言葉かけを振り返りながら、利用者一人ひとりに人格を尊重した姿勢と言葉かけで対応している。また、職員間で注意し合える関係が作られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・外出、レクリエーション時、参加の希望を聞くようにしている。 ・行事の計画などは入居者様の希望を取り入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人の趣味活動の尺八、日記等、居室で自由に過ごされている。 ・全員音楽番組がお好きで、一緒に楽しまれていることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時または行事など、服装を改めお化粧品などと、とても喜ばれている。 ・理美容は家族が行きつけのところに連れて行って下さったり、近くの美容院から来て下さったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理時の皮むきや刻み、盛り付け等に入居者様の力を発揮して戴き、職員はそれに感心して互いに楽しみながら食事に向かっている。 ・後片付けも積極的な手伝いがある。	季節ごとに家庭菜園で作る野菜や、しいたけの自家栽培、近隣からの差し入れなどから、安全で季節感のある食材を確保している。職員も一緒にテーブルを囲み、賑やかに、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。職員は利用者一人ひとりの好みや力を把握して、全員が食事を楽しめるように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・脱水にならないよう、水分摂取に注意している。 ・食事もその方に応じて食べやすい形態を工夫して提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、お一人ずつ時間をかけて丁寧に口腔ケアを行っている。曜日を決めて義歯の消毒・洗浄を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・失敗のあった時は本人を傷つけない様に対応している。 ・必要な方には、日中・夜間とも排泄パターンを把握して、トイレ誘導し失敗なく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。尿意のない利用者にはさり気なく時間誘導を行うなど、一人ひとりの状態に応じた介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物繊維の多い玄米や雑穀を主食に取り入れている。 ・水分摂取の把握、食物繊維の多い食品の摂取、運動、規則正しい生活に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・個人の希望の入浴法は行っていないが、浴室内や脱衣所ではその方の話題を中心に、他の人の前では話せないことを聞いたりしている。 ・浴槽の中では、ゆったりとリラックスできるよう努めている。	浴室は非常に家庭的な造りで、職員の見守りの中で一人ひとりがゆっくり入浴している。回数や時間などおおよその設定はあるが、本人が希望したり、排泄の失敗があった時などはいつでも対応している。また、「ゆず湯」「菖蒲湯」など季節を感じられる工夫も行い、入浴を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の状態を把握し、眠そうにされている様子の方には、気兼ねなく休んで戴く様気配りしている。 ・昼食後は声かけて、昼寝しやすいように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各個人ファイルに服薬明細をファイルしているため、すぐに確認できる体制が出来ている。 ・症状の変化があれば、主治医と連絡を取りながら対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人個別の対応は充分に出来てはいないが、全員で楽しめるような行事やゲームなども考えて行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・全ての入居者が個別に外出することはなかなか出来ない。 ・入居者個人の買い物等がある時は、なるべく一緒に出かけ本人に選んでいただいている。	天気の良い時は、ホームの周辺や敷地内の庭園・家庭菜園など、戸外に出ている。近隣の理髪店には一人で出かける利用者もいる。また、本人の趣味の公演に行ったり、市報等から催し物の情報を得て、文化会館等公共機関にも出かけている。訪問調査日の数日前には全員で桜の花見に出かけた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自立している方は、買い物など行かれたとき、ご自分で支払って戴いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・事前にご家族の了解を戴き、電話をかけた方はかけて戴いている。 ・手紙を書ける方は自分で書かれている。 ・年賀状、暑中見舞いなど、なるべく本人に書いて戴いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロア内を入居者様と共同で四季にあわせて飾り付けたり、貼り絵の展示、外出時や行事の写真の展示などしている。 ・季節の花をかかさず飾っている。	食堂テーブル・椅子の他に、ソファのコーナーも設けて皆でテレビを楽しめる居場所づくりがされている。2つのユニットの間には中庭があり、鳥の餌台などが置かれ、心安らげる空間となっている。また、季節の生花が随所に彩りを添えて、季節を感じながら過ごせる工夫がみられる。浴室・トイレなど適所に手すりが設置され、安全性にも配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂テーブルは気のあった方達で席を決め、食事を楽しめるようにしている。 ・ソファやイスをふんだんに置き、自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使いなれたタンス・鏡・ご家族の写真、日本の風景があるカレンダーなど、自分の部屋である認識が出来るよう工夫している。	家族の協力を得ながら、馴染みのタンスや置物が持ち込まれている。入居後も、写真や手作りの作品、習字を飾るなど、利用者一人ひとりの思いや好みの物を取り入れて、居心地の良い居室づくりが行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個別対応に心がけ、落ち着いてお手伝い等して戴ける様、声かけしている。 ・可能な方には調理、配膳、盛り付け、後片付け、洗濯物たたみ等していただいている。		